

夏期講習會に就て

年々好成績を収めつゝある夏期講習會は、關西に於ける希望者多く、同志を募つて其人名を報告せらるゝ人、近傍名勝の繪葉書を寄せられ開催地を指定せらるゝ人等續々有之、爲めに本年も關西に開かん心組なりしも、出張すべき講師の都合あしく、且昨年關東に於てその催なかりしたため、東京附近の開催を望む人尠ならず、依て今回は海に、山に建物に、あらゆる好材料に富める鎌倉の地に開くことに粗ぼ決定致候。會期は八月三日より二週間、講師は大橋正堯、大下藤次郎兩氏を主とし、日本水彩畫會研究所の講師時々來援せらるべく、課目は、墨繪、水彩畫、透視畫法等、滞在費用一日金五十錢内外、詳細の規定は七月の本誌に發表可致候。同地は御承知の通り名勝舊蹟に富み居候間、關西の諸君も此機を利用して御出席ありたく、且要塞區内にして、平生許可なくして寫生し得られざる地なれど夫々手續の上差支なき様致し置可申

候。猶、明年は、九州四國共に出席に都合よき地を選びて開催致し度ものと存居候。追て此講習會出席希望の方は、前以て御申込あらば、會場及宿舍其他の準備上好都合と存候、次に別項廣告の通り、日本水彩畫會長野支部開催の夏期講習會有之候に付、同地方附近の諸君は其方へ御出席有之度候

更に、越後出雲崎有志より夏期講習會開催の申込有之候、會期は八月二十二日より一週間にて次號に詳細規定を示すべく候間全地方有志の出席を希望致候

『みづゑ』第十七、十八、二十二、二十三、二十八、二十九、三十、三十一、四十一、四十二、四十三には青梅、長野、大阪、澁、奈良等に於ける講習會の記事あり、第十七、十八、二十九等は目下品切なれど、他は特に一部金拾錢の割を以て御需に應すべく候

問に答ふ

■色彩のことにつき初學者に解し易き書物ありや(三河夕暮)◎『水彩畫階梯』には

其巻尾に色彩のことを説明してあり代價送料共一冊三十四錢本會にて取次すべし。其上詳細に知らんとなれば博文館發行工業叢書中の『色彩學』を見られよ定價は壹圓なりしと覺ゆ■藤島武二氏は洋行中なりや(長谷川利行)◎然り■美學及美術史(西洋)の良參考書及發行所等を知りたし(KY讀者)◎森鷗外氏の審美學に關する著書は東京日本橋春陽堂より、岩村透氏の美術史第一卷は湯島切通坂町畫報社より發行、何れも定價不詳■本年夏休みに出京して親しく御教授を受けたし、夏も日本水彩畫會研究所を開かるゝにや(萩戸生)◎夏期は休課なり、多分鎌倉にて夏期講習會を開く筈につき其方へ御出席ありたし、詳細は來月の『みづゑ』を見られよ■廉價なる鉛筆畫のよき臨本なきや(俊三)◎日本橋通三丁目成美堂書店に小山先生の中學用鉛筆臨本あり定價不明■一 小形の乾製繪具は大凡何程位の價格なりや二 ノーボー式の線の太さは一定すべきものなや(一紅)◎一 大形の半價を通例とす二 一定せずとも可